インタビュー

2015年には民間/グローバル領域で、3倍の売上拡大を目指す

ICTを駆使して課題先進国・日本の諸問題を解決することを目指し事業を推進するNTTデータ パブリック&フィナンシャルカンパニーの公共システム事業本部。中央府省関連を中心とした既存ビジネスに加え、新規領域での事業拡大にも取り組んできた同本部が、一段とその取組みを加速・本格化している。公共システム事業本部の新成長戦略について、岩井利夫執行役員にうかがった。

民間とグローバル領域での 事業拡大が成長の鍵

----はじめに、最近の事業の状況から お聞かせください。

岩井 私ども公共システム事業本部は、中央府省の大規模システム開発が主体の事業本部です。売上の約90%超は、中央府省関連のお客様です。この既存ビジネスは大事にしていきたいですし、長い歴史のシステムも多く、長年開発・維持管理に携わってきたことを誇りにも思います。しかし、政府全体の歳出は依然として抑制傾向にあり、IT予算の伸びも期待できないことから、既存の事業領域だけでは自ずと成長に限界があります。この点を踏まえ、公共システム事業本部の成長戦略として、既存事業領域である中央府省

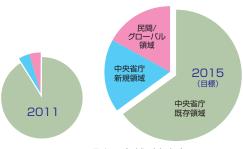


図1 取組み領域別売上高

関連のビジネス拡大・強化に加え、 新しい成長分野への事業領域の拡大 を柱に今年度は事業展開していま す。中央府省関連のビジネスも当然 伸ばす必要がありますが、競争も厳 しいことから、大きな成長が期待で きる事業領域とはいえません。

──新成長分野として、どのような事 業領域をお考えですか。

岩井 新規領域として課題先進国と言われる日本の諸問題を解決するため、エネルギー分野や農業分野でのIT活用に取り組んでいます。またこれまでにも、貿易手続きシステム「NACCS」との接続ゲートウェイソフト「SimGate」の民間企業への導入や、飛行経路設計システム「PANADES」のグローバル展開など少しずつ取り組んできましたが、この取組みを一段と加速し、中央府

省関連のシステム構築で培った 経験・ノウハウを活かしたソリ ューションやパッケージを核に した民間やグローバル領域での 事業展開を本格化しています。 私は、民間とグローバル領域で の事業拡大が、成長の鍵と捉え ています。図1に示すように、



(株) NTTデータ 執行役員 パブリック&フィナンシャルカンパニー 公共システム事業本部長 **岩井 利夫**氏

2015年にはこの民間/グローバル 領域での売上を現在の3倍にまで拡 大することを目標に積極的に取り組 んでおり、実績も出始めています。

一民間/グローバル領域での売上拡大に向けた具体的な取組みの概要をお聞かせください。

岩井 公共=中央府省というイメージを払拭し、民間/グローバル領域の事業拡大に向け様々な取組みを行っていますが、3つの分野で具体的な成果をあげています。取組みの詳細は、後続の各論頁でご紹介しますが、1つは電子書籍等を含めたデジタルアーカイブ (DA) ビジネスの展開です。もう1つは、日本のITインフラのグローバル展開であり、3つ目はそれと連携するグローバルロジスティクス関連の貿易物流ソリューションの展開です。

SIと異なるソリューション/ サービスを基軸にしたDAビジネス

DAビジネスについて、事業の基本的な考え方、今後の方向性をお聞





図2 デジタルアーカイブ事業の今後の取組み

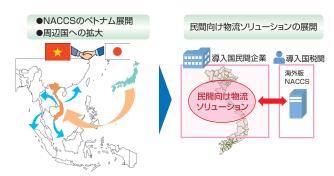


図3 貿易物流分野のグローバル展開

かせください。

岩井 DAビジネスは、既存の中央 府省向けSIビジネスとは異なり、 私どもが持つ技術やソリューション を基軸にした提案型のビジネスで す。国立国会図書館様のシステム構 築で培った技術的な知見に最新の技 術動向を踏まえたR&Dを行いなが ら体系化・ソリューション化してい ます。具体的には、東日本大震災の 出来事を後世に確実に残すための震 災アーカイブ事業、某中央官庁様の マンガ、アニメのアーカイブ事業、 某放送事業者様のアーカイブ技術を 活用した音楽・図書システム等での 展開実績をベースに、「電子図書館 サービス」としてサービス化してい ます。その第一号ユーザーとして、 後続頁でご紹介する秋田県立図書館 様があげられます。本サービスにつ いては、NTTDATA Italiaと連携し てイタリアでの提案活動も行ってい ます。今後、図2に示すように「図 書・論文」、「行政文書」、「文化財情 報」、「地理・時空間情報」、「統計情 報」等の国民生活を豊かにするビッ グデータを、利用者が自由に活用し やすい形で提供できる「ナショナ ル・デジタル・アーカイブ」の実現

に貢献していきたいと考えています。また、海外のデジタルアーカイブと連携し、日本の文化的・歴史的資産に対してアクセスしやすくすることで日本の魅力を世界に発信することにも貢献したいと思っています。

貿易物流分野のグローバル展開 を加速

──ITインフラ輸出では、ナショナルインフラ「NACCS/CIS」(貿易手続き・通関システム)のベトナム版を受注されましたが、貿易物流分野については、今後さらにグローバル展開を加速されるお考えですか。

岩井 日越両政府が、国家プロジェクトとして取り組むベトナム国版の「VNACCS/VCIS」の構築を受注しました。これまで、制度の違いによって、日本のITインフラの海外展開はなかなか上手くいきませんでした。今回は、日本政府の新成長戦略の一環で財務省関税局が提唱する「アジア・カーゴ・ハイウェイ」構想を実現するために、日本の制度とシステムを合わせて輸出するというのが特徴です。「アジア・カーゴ・ハイウェイ」構想は、ベトナム1国

だけでなく、ASEAN諸国を対象に しているため、「NACCS/CIS」の ASEAN他国への展開が期待できま す。これにより、導入国における貿 易手続き・通関に関連する行政手続 きの迅速化・効率化が図れるだけで なく、海外進出を加速する日本企業 の方々のお役にも立てると思ってい ます。また、グローバルロジスティ クスのソリューションとして現在、 ゲートウェイソフト「SimGate」、 安全保障貿易管理支援ソリューショ ン「STC Manager」、貿易書類管理 のペーパーレス化を実現する 「TradeBook」の3つのソリューシ ョンをラインナップしており、すで に多くの利用実績を有しています。 「NACCS」は、官民共同利用型の システムであるため、民間企業向け に、これらグローバルロジスティク スソリューションのラインナップを 他社との連携を含めて強化・拡大を 図り、積極的に展開していきたいと 思っています。冒頭でお話したよう に、民間/グローバル領域での売上 を3年間で最低でも3倍に拡大した いと思っています。

――本日は有り難うございました。

(聞き手・構成:編集長 河西義人)